

IAUD Newsletter vol.12 第 10 号 (2020 年 1 月号)

1. 古瀬理事長より新年のご挨拶.....1
2. IAUD 国際デザイン賞 2019 プレゼンテーション／表彰式開催報告..... 2
3. 第 1 回ドバイ国際アクセシブル観光サミット講演報告..... 7
4. IAUD 2020 年 1 月の予定.....11

オリンピックを契機に更なる UD の推進へ

古瀬理事長より新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。昨年は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も IAUD へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、初の海外開催となった「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」が盛況のうちに終了し、また「IAUD 国際デザイン賞 2019」では多様な分野で国内外より質の高い受賞があり、無事に 2020 年を迎えることができました。

今年最初の Newsletter では、古瀬敏理事長による新年のご挨拶を掲載します。

明けましておめでとうございます。

いよいよ「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の開催まであと半年となりました。

関係各位におかれては、競技に参加する各選手、そして世界各国からはるばる日本を訪れる多くの観客が、最大の満足を経験することができるように、UD を踏まえて提供されるハードとソフトの仕上げに全力でかかっておられることと思います。その努力が立派に成果をあげるよう祈念しています。

さて、昨年は 3 月初旬にタイ王国バンコクにおいて「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」を開催することができました。

これは IAUD としては初めての海外開催でしたが、ASEAN 諸国に対して与えるインパクトの重要性を評価していただき、日本政府予算が支出されている「東アジア・ASEAN 経済研究センター (ERIA)」から多大な援助をいただきました。

また、現地バンコクにおいては、モンクット王工科大学 (KMUTL) との共催という形を取り、同大学の会議場を使っての開催となりました。

なかなか広報が思ったように行き届かず、参加者数が期待したより少なめに留まってしまったのは残念ですが、国際会議の成果はきちんとした報告書にまとめられましたので、少しずつでも伝わっていくことを願っています。



古瀬理事長

2020 年 1 月
一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会理事長
古瀬 敏



「IAUD 国際デザイン賞 2019 プレゼンテーション及び表彰式」会場の様子

一人でも多くの方が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動を表彰する「IAUD 国際デザイン賞 2019」のプレゼンテーション及び表彰式が、2019 年 12 月 18 日(水)に東京ミッドタウン インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター(東京・赤坂)で開催され、海外 5 か国からを含む約 100 人のご参加をいただき、大変盛況のうちに終了いたしました。

今回は国内外から 39 件のエントリーから、「大賞」3 件、「金賞」10 件、「銀賞」8 件、「銅賞」14 件が選定され、賞状の授与や受賞者によるプレゼンテーションが行われました。

今号の Newsletter では、表彰式当日の様子を報告します。



会場の東京ミッドタウン

※「IAUD 国際デザイン賞 2019 プレゼンテーション／表彰式」開催速報は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。

海外 5 か国からを含む約 100 人が参加

今回で 9 回目を迎える「IAUD 国際デザイン賞」は、これまでに国内外の優れた活動や製品が受賞しています。

表彰式も 2017 年度はドイツ・ミュンヘン、2018 年度はタイ・バンコクと海外で開催し、毎回世界各国から多数の方にご出席いただいております。

3 年ぶりに国内での開催となった今回は、タイ、スペイン、ドイツ、スイス、韓国からの受賞者やメディア関係者など約 100 人をお招きしました。

当日は情報保障として、会場には日英の同時通訳を設けました。



満員となった表彰式会場

国内外から 39 件のエントリー

今回は 39 件のエントリーの中から、国内外の学識経験者や UD 専門家等から構成される「IAUD 国際デザイン賞 2019 審査委員会」により「第 1 次審査(書類審査)」と「第 2 次審査(本審査)」が厳正中立に行われた結果、35 点の入賞が選出されました。

当日は、まずは受賞結果として「大賞」3 件、「金賞」10 件、「銀賞」8 件、「銅賞」14 件が発表され、審査副委員長の益田文和氏((株)オープンハウス代表取締役)から各受賞者に表彰状が授与されました。



表彰状を授与する益田審査副委員長(左)



IAUD 国際デザイン賞 2019 大賞 3 件

・交通デザイン部門

「Vision of The Fjords」

The Fjords DA(ノルウェー)

・コミュニケーションデザイン部門

「SoundUD 推進コンソーシアム」

ヤマハ株式会社

・UX デザイン部門

「音をからだで感じるユーザインタフェース“オンテナ”」

富士通株式会社／富士通デザイン株式会社



大賞の表彰状



IAUD 国際デザイン賞 2019 金賞 10 件

・ソーシャルデザイン部門

「LAVENDER RING MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES supported by SHISEIDO」

株式会社資生堂

「障がい者がやりたいことを諦めずにチャレンジし実現できる社会」

須磨ユニバーサルビーチプロジェクト

・住宅・建築部門

「From Innovation Act to Action Learning: Cultivating Inclusive Architects」

Bangkok University(タイ)

「誰もがいつまでも暮らしやすい住まいを。『ジオフィットプラス<ステージ>』の取組み」

阪急阪神不動産株式会社／SENA Development Public Company Limited

・UX デザイン部門

「サッカー&ユニバーサルツーリズム ～発達障害のある子どもたちのサッカー応援ツアー」

富士通株式会社／富士通デザイン株式会社／株式会社 JTB／全日本空輸株式会社／

川崎フロンターレ／公益社団法人日本プロサッカーリーグ／川崎市

・公共空間デザイン部門

「Accessibility Digest」

CALICRATES(スペイン)

「Sintered Natural Stone and Sintered Concrete」

Access Safety(スペイン)

・医療・福祉部門

「moio. The smart care patch」

MOIO GmbH(ドイツ)

・コミュニケーションデザイン部門

「Aira: Powering Inclusion for Blind, Low-Vision Individuals Through Business Partnerships and Human AI Technology」

Aira Tech Corporation(米国)

・地域計画部門

「Gateway Arch National Park & Museum at the Gateway Arch」

Cohen Hilberry Architects(米国)

※大賞と金賞受賞の内容は IAUD Newsletter vol.12 第 11 号(2020 年 2 月号)より順次紹介し
ます。

その後、審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)からの総評があり、「審査員は今回、すべての参加者に一連の課題を設定することにより水準を引き上げる時期であると判断し、斬新で躍動的なすべての人のためのデザイン、そして人間中心デザインの新天地を開くアイデアを求めました。IAUD 国際デザイン賞にインスパイアされたここ数年の進展に感動し、また毎年新たな応募を拝見することができ光栄に思っています。今回の水準が上がったことは間違いありませんが、これが UD の新たなアドベンチャーの幕開けに過ぎないことを願っています」と述べました。

※審査委員長からの総評の英語原文・音声は、[こちら](#)をご確認ください。



コールマン審査委員長



益田審査副委員長

また、審査副委員長の益田氏からも講評として、「大賞を受賞した3点は、どれもがハンディキャップという言葉が持つネガティブな印象とは無縁です。UD、あるいはインクルーシヴデザインを成立させる前提条件は多様性を受け入れることです。お互いの差異を認め合う共通認識と共存をテーマとするその考え方は、今日の世界状況だからこそ重みを増す価値観なのではないでしょうか。UD がデザインの特種な専門領域から、すべてのデザインに通底する共通概念へと広がるよう活動を続けていきたい」と述べました。

最後に、審査委員の荒井利春氏(金沢美術工芸大学名誉教授)からも講評として、「受賞されたデザインは、情報機器、ロボット、観光船、サイン、デザインガイド、化粧、教育など実に幅広い領域に渡っています。また、大小の様々な規模の企業やコンソーシアム組織、NPO、教育機関などの多様な活動主体が受賞しており、それらの総体が IAUD 国際デザイン賞の果たす役割を物語っています。企業を超えたサウンドコンソーシアムの活動、極めて独創的で魅力的なユニヴァーサルかつエコロジカルな観光船、コミュニティ活動に連動するインクルーシヴで実践的な建築デザインの教育などは、UD の新たな次元を私達に提示していると言ってよいでしょう」と述べました。



荒井審査委員

続いて、当日会場にお越しいただいた大賞2件と金賞6件の受賞者によるプレゼンテーションが行われました。



大賞と金賞受賞者によるプレゼンテーションの様子

プレゼンテーション終了後に閉会となり、会場では参加者間で和やかな歓談が行われました。

今回は多くの受賞者の皆様にご参加いただき、素晴らしいプレゼンテーションと共にUDについて、更に興味を深め共有することができました。

今年も「IAUD 国際デザイン賞 2020」を実施いたしますので、奮ってご応募いただきたくお願いいたします。応募要領は近日中に IAUD 公式サイトに掲載します。



終了後は参加者同士で歓談が行われた



すべての人が観光地にアクセスできるように 「第1回ドバイ国際アクセシブル観光サミット」講演報告



第1回ドバイ国際アクセシブル観光サミットセッション会場の様子

「第1回ドバイ国際アクセシブル観光サミット (Dubai Accessible Tourism International Summit)」が2019年11月5日(火)と6日(水)の2日間、アラブ首長国連邦(UAE)第2の中心都市ドバイにある世界貿易センターで開催され、川原啓嗣専務理事が招待講演者として参加しました。

川原専務理事はIAUDの主な活動や会員企業のUD事例を紹介したほか、2019年3月に開催した「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議2019 in バンコク」の報告も行いました。

サミットの概要やドバイの様子について、川原専務理事が報告します。

テーマは「Tourism for Everyone」

今回が初めての開催となる「ドバイ国際アクセシブル観光サミット」は、11月5日(火)～7日(木)まで行われた障害者を対象にしたMENASA地域(南アジアから、中東、中央アジア、北アフリカ)最大のイベント「第3回 AccessAbilities Expo」と同時開催されました。

サミット総裁であるアハマド・ビン・サイード・アル・マクトゥーム殿下は、現在のドバイ首長ムハンマド・ビン・ラーシド・アル・マクトゥーム殿下の叔父にあたり、ドバイ民間航空庁長官兼エミレーツ航空会長でもあります。



サミット会場の世界貿易センター

出席者の顔ぶれも厚生大臣や観光庁長官など政府要人の他、近隣の国々の王族も来賓として参加していました。

今回は「Tourism for Everyone」をテーマに、2日間で6つの基調講演と11のセッションが行われ、世界各国の政府高官や国際機関関係者、専門家などの招待講演者が、「ホスピタリティ」「交通」「メディカルツーリズム」「金融サービス」などについて講演しました。

そして、世界人口の約15%にあたる10億人の障害者があらゆる都市にスムーズにアクセスできるための具体的な法律や政策、インフラに関する世界各国の見解や優れた実践事例を共有しました。

さらに、激しい競争に直面している観光ビジネスにとって、アクセシビリティの改善がもたらすメリットへの理解と、都市が社会的責任のある持続可能な土地であり続ける意義も提示しました。

また、世界有数の観光都市に成長したドバイでのアクセシブル観光への取り組みも紹介されました。



UAE 地域開発省女性大臣による開会の挨拶

IAUD の活動を紹介

川原専務理事は初日のセッション 3「Universal Design-Planning, Strategies and Politics (UD-計画、戦略そして政略)」において、「Is Comfortable Living Environment for People with Disabilities Achievable? (障害者にとって快適な生活環境は実現可能か)」のタイトルで15分間講演しました。

まずは、寛仁親王殿下が2002年の横浜での国際UD会議および2003年のIAUD設立にご尽力されたことを述べました。そして、以後、7回の国際UD会議を開催しており、開催地の事情に合わせており、例えば2019年3月に開催した「第7回国際UD会議2019inバンコク」ではタイ語、英語、日本語の同時通訳／同時字幕表示などの情報保障を行っていることを説明しました。

さらに、IAUD国際デザイン賞受賞事例や会員企業のUD事例なども紹介しました

終了後、他の講演者から口々に「とても良かった」との感想をもらいました。そのせいか、2日目のサミット開始前に主催者の計らいで、ヨルダン王子やサウジアラビア王女とコーヒーを飲みながら会話を交わすという貴重な機会をいただきました。



講演する川原専務理事



熱心にセッションを聴講する参加者(写真左の最前列はアラブ諸国の王族、政府高官の方々)

障害者は People of Determination

今回のサミットでは講演者の多くがスピーチの中で、障害者のことを「People of Determination(決意の人々)」と呼んでいるのに気づきました。

それまで耳にしたことがなく、講演者の一人で米国人のフレッド・マース氏(Travel for All 代表)に聞くと、「People with Disabilities(障害のある人々)」の婉曲的または差別に配慮した表現で、「Physically Challenged(身体的困難に挑戦する人々)」、「PRM: People with Reduced Mobility(移動に制限のある人々)」のように用いられていたものが、さらに丁寧な意味合いを含め発展した形とのことでした。

2017年4月にムハンマド首長が、障害者は困難にも諦めずに立ち向かい、目標を達成することを証明した人たちであるとし、今後は「People of Determination」という呼び方に改めると発表しています。その後、アラブ首長国連邦では王族や政府高官も率先してこの用語を用いており、かなり浸透しているようでした。

ドバイは2020年10月から6か月間、観光をテーマにした「2020年ドバイ国際博覧会(万博)」を開催します。MENASA 地域では初めてとなるこの万博で、障害者へのアクセシビリティ改善を強くアピールし、観光客の増加に繋げたい思惑があるようです。

多種多様な障害者用製品を展示

併設する展示会は、日本でよくみられる福祉機器展のようでした。出展企業の多くは中小企業で、車椅子や多種多様な障害者用生活機器を展示していました。

大手企業としては、メルセデスベンツが車椅子を搭載できる福祉車両を展示していたくらいで、他にあまり目新しい機器はありませんでした。



併設展示会の様子

産業多角化で中東最大の都市国家に

サミット終了後、7日と8日はドバイの観光名所を一通り訪れるべく、全高828mの世界一高いビル「ブルジュ・ハリファ」や、世界一大きい人工島「パーム・ジュメイラ」、世界最大のショッピングモール「ドバイ・モール」などを駆け足で訪れ、都市環境整備や観光産業のあり方、公共交通機関のUD対応などを見て回りました。



「ブルジュ・ハリファ」(写真左)の124階にある展望台(452m)から見下ろした風景と「ドバイ・モール」内のアクアリウム

ドバイでは、石油が発見される前の産業は漁業と天然真珠の輸出くらいしかありませんでしたが、日本が真珠の養殖に成功するや壊滅的な打撃を受け、世界恐慌と重なり危機的状況となったそうです。

その後、油田が発見されたことで経済が飛躍的に発展しました。しかし、ドバイ首長はいつか石油が枯渇するとの危機感のもと、それに代わるビジネスとしての金融や観光産業の育成に努め、アジアと欧州をつなぐ中継地という地理的条件を活かし、中東最大の都市国家に発展させました。

ドバイ旧市街のクリーク(入江・港湾)やスーク(市場)を上手に残しつつ、新市街には天を突き刺すかのようなタワーや超高層ビルを林立させ、沖合には椰子の木を模したパーム・アイランド(人工島群)を造成するなど、21世紀に入ってから20年はまさに未来世紀ドバイの姿を地上に実現化しており、驚異と羨望を禁じ得ません。



スーク(市場)の様子(写真左)と7つ星ホテル「ブルジュ・アル・アラブ」

ドバイ万博から大阪万博へ

「失われた20年」の低成長からの脱却に喘ぐ日本と一体何が違うのか、考えさせられますが、優秀な絶対君主による政治と経済の一体化と壮大なヴィジョンに基づく社会資本の整備が一系乱れず遂行されていることに加え、自由貿易を徹底し、海外からの投資や労働力、外国の文化の受け入れを寛容に行ってきたことが成功の要因としてあげられるでしょう。

古くからのアラブ固有の文化や民族の誇りは保ちつつ、西欧の合理的思考を取り入れ難なくやってくるしたたかさは、実はかつて日本が得意としてきたことかもしれません。

2020年10月20日から2021年4月10日まで実施されるドバイ万博は、2025年に大阪で開催される「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」、そしてその後の日本のあり方を考える意味でも、一度見ておく必要があるかもしれません。

世界最大のショッピングモール「ドバイ・モール」のそばをタクシーで走りながら、インドから出稼ぎに来ている運転手があちこちの表示を指差して、「ほら、ドバイではいたるところで『Do Buy! Do Buy!』って言ってるでしょ!」と笑って話していたのが印象的でした。

※「ドバイ国際アクセシブル観光サミット」詳細は[こちら](#)もご覧ください。



2020年1月の予定

月	火	水	木	金	土	日
13 成人の日	14	15	16 13:00~ 衣のUDPJ @IAUD サロン	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29 13:30~ CM字幕PJ @IAUD サロン	30	31		

次号は2020年2月上旬発行予定

特集:IAUD国際デザイン賞2019受賞紹介①ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
 事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
 電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net